



主体的に活動するための環境構成と援助の工夫 ー地域行事のごっこ遊びを通してー

糸満市立糸満幼稚園教諭 松原麻子

1 研究のテーマについて

幼児は興味をもったものに対して積極的にかかわっていかうとする。その中で自ら見て、触れて、感じる等、直接体験を通してイメージを広げ、意欲的に活動していく。

地域には幼児の心を揺り動かすものがたくさんある。幼児のより身近で親しみやすい糸満ハーレーをごっこ遊びに取り入れることにより、幼児の興味や関心を深め、意欲的に活動していくと考え、この研究をスタートした。

2 研究の特徴

地域とのかかわり

地域の方を招いて糸満ハーレーの由来を聞いたり、ハーレーに関連する史跡やサバニを見学した。実際にサバニやエーク等に触れ、イメージを広げながら遊びの興味や関心を深めていった。

地域とのかかわりの中で色々なことを知り、友達や教師に話す楽しさやお互いに伝え合う嬉しさを味わいながら地域とのかかわりを楽しんでいった。

地域行事のごっこ遊び

地域とのかかわりの中で体験したことを生かしながら、糸満ハーレーをごっこ遊びに取り入れた。形や模様など工夫したり試したりしながらハーレー舟を作り、廊下全体を海に見立ててハーレー競漕を楽しんだ。また、お店屋さんでも自分の経験を生かしながら製作を楽しみ、友達とイメージを共有しながら意欲的に取り組んでいった。

3 指導の実際



地域の方からハーレーの由来を聞く



糸満ハーレーを取り入れたごっこ遊び

4 結 論

地域の人やものを積極的に活用したことで地域とのかかわりが深まり、そこでの経験が遊びの興味や関心につながっていった。また、実際に経験した糸満ハーレーをごっこ遊びに取り入れたことにより、イメージを共有しながら意欲的に活動する姿が見られた。今後もハーレー以外の地域行事を取り入れ、主体的な活動を促していきたい。

〈幼稚園教育〉

主体的に活動するための環境構成と援助の工夫

～地域行事のごっこ遊びを通して～

糸満市立糸満幼稚園教諭 松原麻子

I テーマ設定の理由

幼稚園教育の基本的な考え方

直接体験の減少

環境を通して行う教育

近年、核家族化や少子化による人間関係の希薄化や女性の社会進出が進む中、幼児を取り巻く生活環境も変化している。戸外遊びの活動範囲が狭まり、直接体験が少なくなり、地域や身近な人達とのかかわりや地域社会での触れ合い等、心を揺り動かす体験をする機会も減少してきている。幼稚園教育は、学校教育法第 77 条に規定する目的を達成するため“幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものである”ことを基本としている。その中で「幼児にふさわしい環境の中で一人一人の子ども達が自分から人やものにかかわり、自然、地域社会とも触れ合いながら主体的に活動を展開させること」と述べている。幼児自身が「楽しい」「知りたい」と心を揺り動かされ、能動的にかかわれる環境が必要であり、興味や関心をもちながら遊ぶ中で「やってみたい」と活動意欲を高め、充実感や満足感を味わうようにすることが大切である。

これまでの保育を振り返って

教師の読み取りの弱さ

幼児の主体性と教師の意図

本園の実態を見ると、友達や教師と一緒に遊びに取り組んでいる幼児が多い。しかし中には、教師や友達に依存して遊びに取り組めなかったり、友達の遊びを傍観し遊びとうしない幼児の姿も見られる。また教師の準備した環境に対し、与えられた環境として受け身になってしまい、遊びが持続しないこともあった。その原因として、教師が幼児の遊びや興味についての読み取りが弱かったために活動意欲につなげる援助が不足していた。また、興味や関心を深めながらかかわることができる環境構成が十分になされていなかったことも幼児が意欲的に活動できなかった要因と考えられる。改めて、幼児の主体性と教師の意図をバランスよく絡み合わせた保育の難しさを痛感した。

本研究において

地域行事を保育に取り入れる

地域とのかかわり

ごっこ遊び

そこで本研究では、幼児のより身近にある地域に目を向け、地域行事のごっこ遊びを通して幼児が主体的に活動するための環境構成と援助の工夫を図っていききたい。

幼児にとっての主体的な活動とは、興味や関心をもって遊び、思いや願いをもち続けながら自分の意志で意欲的に活動に取り組むことである。教師が意図的・計画的に地域行事を取り上げ保育に生かしていくことで、幼児が主体的に活動に取り組むと考える。地域は様々な人々との交流の機会を通して豊かな体験を得られる場である。地域の人々と触れ合う、地域行事の由来を聞く、史跡を訪れる等の環境構成の工夫をすれば、幼児は地域を知り「すごい!」「自分もやってみたい」といった気持ちになり、興味や関心が深まることになる。その中で、分かったことをお互いに話したり、不思議に思ったことや知りたいことを進んで聞いてみたり、「やってみよう」「こうしたい」と自分の思いや願いを持って遊具を作る等、意欲的に活動に取り組むと考える。

以上のことから、興味や関心が深まり、意欲的に活動に取り組むための環境構成と援助の工夫を図れば、幼児が主体的に活動に取り組むだろうと考え本テーマを設定した。

Ⅱ 研究仮説と検証計画

1 研究仮説

地域行事のごっこ遊びにおいて、以下のような環境構成と援助をすれば、幼児は主体的に活動するであろう。

- (1) 地域の人やものとのかわりを通して遊びの興味や関心を深める環境構成と援助の工夫。
- (2) ごっこ遊びを通して意欲的に活動するための環境構成と援助の工夫。

2 検証計画

の調査 保育実践前	実施時期（6月） 実施内容：糸満ハーレーに関するアンケート（全園児 31人）		
	検証の場面	検証の観点	検証の方法
	(1) 地域との かわり	・興味や関心を深めるために有効であったか。	① 全体と抽出児の遊びの興味や関心は、地域とのかわりの観察の中から評価基準を用いて評定する。そして、それぞれの事前と事後の得点の変容を比較・考察する。 ② 事前と事後の評価の変容を比較・考察する。 ③ 教師の観察による事前と事後の興味や関心の変容を比較・考察する。
	(2) ごっこ遊び	・意欲的に活動するために有効であったか。	④ 全体と抽出児の遊びの意欲は、ごっこ遊びの観察の中から評価基準を用いて評定する。そして、それぞれの事前と事後の得点の変容を比較・考察する。 ⑤ 事前と事後の評価の変容を比較・考察する。 ⑥ 教師の観察による事前と事後の意欲の変容を比較・考察する。
遊びの興味や関心を深め、意欲的に活動することは幼児が主体的に活動するのに有効であったか。			・幼児の主体的な活動を、①～⑥の結果から比較・考察して検証する。

Ⅲ 研究内容

1 主体的に活動するための環境構成と援助の工夫について

主体的な活動 の4つの捉え ↓ ・興味や関心 ・意欲 ・思いや願い ・意志、判断	(1) 主体的に活動するとは
	幼稚園での活動の主体は幼児であり、幼児が意欲をもって積極的に周囲の環境にかかわっていくことが大切である。
	幼児にとって主体的に活動することを下記のように捉える。
	① 自分の興味や関心に基づいて遊びを展開する。
	② 意欲的に活動に取り組む。
	③ 遊びに対する思いや願いをもちながら遊びを展開する。
	④ 自分の意志・判断で行動する。
	主体的な活動を促すためには、環境から刺激を受けながら、幼児が本来もつ能動性を発揮することが大切である。その中で幼児はいろいろなことに気付き、「自分もやってみよう」と期待をもって主体的に取り組むようになっていく。
	幼児にとっての主体性の4つの捉えを基に評価基準を作成し、観察した結果を評価する指標として用いる（表1）。

表1 幼児の主体性と評価基準

	評価項目	評価基準			
		4(良い)	3(概ね良い)	2(あまり良くない)	1(良くない)
幼児の主体性	① 興味や関心	自分から進んでかわり試したりする。	教師や友達と一緒に考え試している。	教師や友達がかかわり試している様子を見ている。	かかわろうとしない。
	② 意欲	積極的に取り組む。	教師や友達に誘われると一緒に取り組む。	教師や友達に誘われ、指示に従い取り組む。	教師や友達に誘われても、やろうとしない。
	③ 思いや願い	自分でやりたいと思ったとおりに取り組む。	教師や友達と一緒に取り組む。	自分の思いが出せずに友達の指示に従って取り組む。	自分の思いを伝えることができない。
	④ 自分の意志・判断	自分が決めたことに最後まで取り組む。	教師や友達と一緒に考えながら取り組む。	相手の言動に合わせて取り組む。	自分で考えない。

環境を構成する4つの視点
↓

- ・発達
- ・興味や関心
- ・生活の流れ
- ・応答性

(2) 環境構成について

教師は幼児の発達に必要な豊かな体験が得られるような環境を意図的・計画的に構成していく必要がある。幼児の興味や関心に即しながらも、その時期に幼児の中にどのような育ちを期待したいのか、そのために必要な経験は何かを考え、その経験が可能となるように環境を構成していかなければならない。幼児が主体性を発揮し活動に取り組めるようになるための環境を構成する視点を次のように捉える。

① 発達の時期に即した環境の構成

発達の長期的な見通しをもち、その時期ならではの特徴を生かし環境を構成する。

② 興味や関心に即した環境の構成

幼児の興味や関心を理解し、今どのような経験をする必要があるかを見通し環境を構成する。

③ 生活の流れに即した環境の構成

幼児の興味や意識の流れを大切に、そのような生活の流れに関連した環境を構成する。

④ 応答性のある環境の構成

幼児の興味や関心をより深めていけるような場や遊具・素材があり、活動を共に楽しめる友達や教師がいること。そして自分が納得いくまで取り組める時間と活動を他から邪魔されないような空間がある環境を構成する。

以上のように、環境は「あるのか」「ないのか」ではなく、それが幼児に対して「どういうはたらきをもっているのか」が重要である。幼児の活動の展開に応じて常に環境を再構成していくことが大切であり、幼児の発達の見通しや活動の予想に基づいて構成されなければならない。

幼児を理解する3つの視点
↓

- ・共感
- ・個別
- ・発達

(3) 教師の援助について

教師は幼児のあるがままを受け止め、共に生活していく中で幼児一人一人の特性を的確に把握し理解していかなければならない。そのためには幼児理解が最も大切である。幼児の内面に育つものを把握し、幼児が何を思い、何を実現したいと思っているのか、一人一人の発達・活動を見通して柔軟に対応していかなければならない。幼児を理解する重要な視点として次の3つがあげられる。

① 共感的理解

大人の論理ではなく、幼児の見方、感じ方にそって幼児の行動の意味を理解する。

② 個別的理解

大勢の中の一人として客観的に見るのではなく、一人一人を大切に理解する。

③ 発達の理解

幼児の行動を発達的に捉え理解する。

以上のように、幼児が主体的に活動できるよう、一人一人の活動の場面に応じた教師の援助が必要なのである。

(4) 主体的に活動するための環境構成と援助の工夫

本研究では、1学期の幼児の発達に沿って①興味や関心、②意欲の視点から、主体的な活動を促していくことにした。幼児が主体的に活動するための環境構成と援助の工夫を主体性の捉えである4つの視点に沿って表2にまとめた。

表2 主体的に活動するための環境構成と援助の工夫

	環境構成	援助の工夫
① 興味や関心	・安心して過ごせる自分の居場所を作る(発) ・時期に合わせた絵本や紙芝居等を用意する(興) ・時期に合わせた壁面構成や製作をする(興) ・以前に作った物を展示したり、遊びのイメージにつながりそうな物を展示する(応) ・遊びが楽しめるような雰囲気、場作りをする(応) ・興味や関心がある話題を伝え合える場の設定をする(発) ・その時期に応じて地域の人やものとかかわりを取り入れ、地域の場所に行って園で経験できない遊び等を行う(生)	・教師との信頼関係を築き安心感をもたせる(発) ・個々の感じたことや考えたことを認め受け止めながら聞いてあげる(個) ・わからなかったことや不思議に思ったことにはできるだけ答えるようにし、個々の興味関心に応じた言葉かけをする(共) ・地域行事を見学したり、話題になっていることをクラスで取り上げ感動を共有したり、共通理解を図ったりする(発)
② 意欲	・遊びが十分に楽しめるような遊び空間、コーナーを確保し、設置する(応) ・遊びのイメージが広がるような素材や用具の提示をする(興) ・より本物らしく近づけるための素材の投入をする(応) ・個々の頑張りを認め合える場の設定をする(発) ・自分を表現、発揮できる場の設定をする(発)	・進んでやろうとする思いや気持ちを受け止め、本人なりの頑張りを認めてあげる(個) ・一緒に加わりながら、遊びのイメージを読み取り、必要に応じて遊びのアイディアを提示したり、変化を与えたりしながら意欲がもてるようにしていく(個)
③ 思いや願い	・思考錯誤ができるような多様な素材の準備をする(応) ・遊びのイメージが広げられるような素材や用具を準備したり、遊び場の提示をする(応) ・個々の表現を認め合える場の設定をする(発)	・イメージや思いが実現できるよう、遊びに加わり手伝ったりする(個) ・イメージを読み取りながら、遊びに広がりをもてるようにしていく(個)
④ 自分の意志・判断	・トラブルが起きた時に話し合える場の設定をする(発) ・感動を共感したり、イメージの共有ができるような場の設定をする(発) ・遊びの中で、個々の工夫やアイディアを認め合える場の設定をする(発) ・友達とイメージをつなげながら遊びが楽しめるような場の設定をする(発)	・トラブルが起きた時には、お互いの思いを受け止めながら仲介し、お互いに伝えられるようにしていく(発) ・遊びの中で工夫やアイディアを認め、他児に知らせながら自信につなげていく(個) ・教師も遊びに加わりながら、友達とイメージを共有する楽しさに共感していく(発)

【環境構成の4つの視点】 (発) 発達の時期に即した環境構成 (興) 興味や関心に応じた環境構成

(生) 生活の流れに応じた環境構成 (応) 応答性のある環境構成

【援助の3つの視点】 (共) 共感的理解 (個) 個別的理解 (発) 発達の理解

2 地域行事のごっこ遊びについて

(1) 地域行事を取り入れる意義

地域行事の良
さ

地域行事は幼児にとってより身近で親しみやすく、興味や関心をもってかかわることができる。また幼児の実体験に伴い、教師や友達と感動を共有しやすく、イメージを伝えやすい。地域行事を幼児の遊びに取り入れることで、

親しみ
憧れや尊敬
誇りや自信
友達関係や遊
びの深まり

- ① 地域を知る機会が増え、地域の人やものに【親しみ】をもつようになる。
- ② 地域の人に【憧れや尊敬の気持ち】をもつようになる。
- ③ 地域に対して幼児なりの【誇り】や【自信】につながる。
- ④ 感動・イメージを共有することで【友達関係】や【遊び】が深まる。

そのためには、幼児に夢や希望を与えられるような取り入れ方を考え、保育の中で地域行事を生かしていきたい。

(2) 地域行事の種類

本園区域にある地域行事の中から、地域とのかかわりを通して人材活用が可能で、特にこれから園での活動に取り入れていきたい行事の種類をまとめた。(表3)(一部省略)

表3 幼稚園区域の主な地域行事

糸満ハーレー (旧暦5月4日) 糸満漁港地区内	・今から450年前に豊見城の城主で後に南山王となった旺応祖が中国で見てきた行事をこの地に伝えたといわれている。 ・よりいっそうの大漁と航海安全を祈願して行われる。 ・伝統の三村(西村・中村・新島)によって競漕が行われる。 ・サバニには10名の漕ぎ手と1名のカジ取り、1名の鉦打ち、計12名が乗り込み、最初のウグアンバーレーでは850m、最後のアガイスーブでは2185mの長い距離を各村とも腕力、技量ともに秀でた漕ぎ手をそろえて勝負に臨む。
糸満大綱引き (旧暦8月15日)	・南部の由来記によると「毎年稲が害虫に達って不作続きで神の祟りとされていた。そこで稲の藁で縄をつくり豊作祈願の余興に縄をひき、後でその縄を河に流し虫払いを行ったところ、翌年から豊作になった。」と記されている。

(3) 地域行事のごっこ遊びを通して育つこと

地域とのかかわりや行事見学での体験をごっこ遊びに取り入れることで、

- ① 地域とのかかわりの中で知ったことを伝え合う楽しさを味わったり、自分なりに言葉や動きで表現したりすることで【コミュニケーション能力】が育つ。
- ② 行事見学を通してイメージが共有しやすく、自分なりに考え出し、工夫し試したりする等の【想像力】が育つ。
- ③ 遊びの共通化を図ることで、トラブル(イメージの相違・物の取り合い等)が起きた時でも自分たちで解決しようとする【問題解決能力】が育つ。

これらのことから、地域行事のごっこ遊びは実体験を基にして自分の力が十分に発揮され、自ら意欲的に活動に取り組むことができる。

3 地域行事のごっこ遊びでの環境構成と援助の工夫

地域行事のごっこ遊びでの環境構成と援助の工夫を、環境を構成する4つの視点と援助の3つの視点でまとめ、表4を作成した。

表4 地域行事のごっこ遊びでの環境構成と援助の工夫

環 境 構 成 の 工 夫				援 助 の 工 夫		
発達の時期に即した環境構成	興味や関心に応じた環境構成	生活の流れに応じた環境構成	応答性のある環境構成	共感的理解	個別的理解	発達的理解
○地域行事を見学後、感動を共有できるような話し合いの場を設定する。	○地域行事に関連のある史跡やものを見たり、触れたりする。	○地域行事に関する絵本や紙芝居を部屋のコーナーに用意して置く。	○地域行事の写真を掲示する。	○史跡やものを見たり、触れたりして幼児なりに感じたことや思ったことを受け止めながら聞く。	○由来等ではない事や不思議に思っている事にはできるだけ答える。	○地域行事での感動を共有したり、ごっこ遊びについて共通理解を図ったりする。

○製作時には、工夫やアイデア等を認め合える場の設定をする。 ○友達と一緒にイメージをつなげながら、ごっこ遊びを楽しめる場の設定をする。	○地域の方から由来等を聞く。 ○昨年の園児が製作した地域行事に関するものを目に付きやすいところに置く。 ○ごっこ遊びが十分に楽しめる遊びの空間を確保する。	○製作も楽しめるよう折り紙や画用紙、絵画の用具も準備しておく。 ○地域行事を見学する。 ○園児が地域行事に関する製作物を作ってきた時には、好きな場所に飾ってあげる。	○玄関前や部屋の壁面に地域行事に関する壁面構成をする。 ○イメージが広がるような素材の提示や雰囲気作りをする。	○これまで経験した地域行事の話を聞きながら、興味関心がもてるようにする。 ○地域行事の見学後、感想を聞きながら、お互いの思いを伝え合えるようにする。	○自分のイメージや思いを言葉や動きで表現できるような見守る。 ○個々の発想を認め、工夫やアイデアを友達に知らせ、自信につなげる。	○お互いのアイデア等を認め合いながら、遊びが進められるようにする。 ○友達とイメージを共有しながら遊びを進める楽しさが味わえるようにする。
--	---	--	--	---	---	--

4 幼児が主体的に活動するための地域行事のごっこ遊びの指導計画

幼児が主体的に活動するために、教育課程をもとに地域行事のごっこ遊びの年間計画を作成した(表5)。(環境構成と援助の工夫は表4参照・省略)

表5 幼児が主体的に活動するための地域行事のごっこ遊びの年間計画

期	1期	2期	3期	4期	5期
月	4月～5月中旬	5月中旬～7月	9月～11月中旬	11月中旬～12月	1月～3月
発達の過程	教師や友達との触れ合いを通して、安心していく時期	気の合う友達と一緒に周囲のものや遊びとのかかわりを楽しむ時期	個を発揮しながら遊びに挑戦したり、友だちとのかかわりを楽しむ時期	友達とのつながりを深めながら遊び、グループの中で自己の力を発揮していく時期	グループやクラスの友達と一緒に共通の目的をもって園生活を展開していく時期
活動名	糸満ハーレー (旧暦の5月4日)	糸満ハーレー (旧暦の5月4日)	糸満大綱引き (旧暦の8月15日)	糸満大綱引き (旧暦の8月15日)	糸満ハーレー 糸満大綱引き
ねらい	・教師が海に関する絵本やお話をすることで、教師と親しみながら安定して過ごす。 ・自分の経験したことを話したり、友達や教師の話を聞いたりして興味や感心をもつ。	・糸満ハーレーを見学し感動を共感する。 ・自分のイメージで製作を楽しんだり、気の合う友達とイメージを共有しながら、ごっこ遊びを楽しむ。	・糸満大綱引きを見学し感動を共感する。 ・友達と遊ぶ中で自分なりに工夫したり、試したりしながら、ごっこ遊びを楽しむ。	・友達とイメージを共有しながら遊びを進め、お互いに考えやアイデアを出し合いながら、ごっこ遊びを進めていく楽しさを味わう。	・クラス全体での共通イメージをもちながら、これまでの遊びを再現して楽しむ。

★環境構成と◎援助の工夫は省略

IV 保育実践

1 活動名 糸満ハーレーごっこ

2 活動設定の理由

(1) 教材観 (省略)

(2) 幼児観 (省略)

(3) 指導観

幼児は興味をもったものに対して積極的にかかわっていかうとする。その中では自ら

触れて、感じて、直接体験することで遊びのイメージが広がり、より遊びを楽しむことにつながっていく。

糸満ハーレーをぐっこ遊びに取り入れる過程では、地域とのかかわりの中で実際に見たり、触れたりしてハーレーへのイメージを広げ、遊びに生かしていきたい。また、実体験を通してイメージが共有しやすく、遊びに広がり期待できる。そこで環境の工夫として、個々のイメージに合った素材での製作や共通したイメージでの遊び空間の設定を行う。援助の工夫として、友達とのかかわりをもたせながらお互いに伝え合う楽しさや認め合う嬉しさが感じられるようにする。また、イメージを共有する楽しさも味わえるようにしていく。ハーレーぐっこをすることで、自分の経験を生かし遊びの中でイメージしながら主体的に取り組んでいけるように援助していきたい。

3 保育目標

友達とイメージを共有し、個々の発想やアイディアを生かしながら意欲的にぐっこ遊びに取り組む。

4 保育計画

ぐっこ遊びに糸満ハーレーを取り入れ、表4を基に環境構成と援助の工夫をまとめた。

月 日	ねらい	幼児の活動	環境構成	援助の工夫	検証内容 検証方法
6 月 8 日	・絵本の読み聞かせをして、糸満ハーレーに興味や関心をもちさせる。	・「がんばれハーレー」の絵本を見る。 ・これまで経験したハーレーの話をする。	・海に関する絵本や紙芝居等を用意し、糸満ハーレーに興味や関心がもてるようにしていく。	・これまでの経験を聞いたり、友達に話したりしながら、糸満ハーレーに興味や関心がもてるようにしていく。	仮説(1) 観察記録
6 月 12 日	・地域の方から「糸満ハーレー」の由来を聞き、親しみをもちつ。	・由来について話を聞く。 ・質問に答えたりする。	・聞いた由来を子ども達と一緒に紙芝居にし、イメージが広がるようにする。	・由来を聞いてわかったことを確認したり知りたいことにはできるだけ答えるようにする。	仮説(1) 観察記録
6 月 14 日	・「糸満ハーレー」にかかわる史跡を訪れ、興味や関心を深める。 ・サバニに触れ、ハーレーへの期待感やイメージを広げる。	・サンティンモーで「大漁・航海安全」を祈願する。 ・旗振りをしてみる。 ・サバニを見たり、触れたり、乗ったりして楽しむ。	・御願ハーレーの合図に使う旗のイメージがもてるよう、クラス旗で旗振りをする。 ・巻尺を用意し、サバニの長さを測る。	・サンティンモーがハーレーにどう関連しているのかを確認し、実際に旗振りをすることで糸満ハーレーに期待がもてるようにする。 ・サバニの色や形、大きさ等に気付き、興味や関心が深まるように言葉かけをする。	仮説(1) 観察記録
6月18日(月) 糸満ハーレー(当日休園・親子見学)					
6 月 19 日	・糸満ハーレーでの感動に共感したりイメージの共有を図る。	・ハーレーを見学して自分が感じたことを言ったり、友達の話の聞いたりして、お互いに伝え合う。 ・ハーレー舟を作る。	・ハーレーでの感動を共有できるような場を設定する。 ・ハーレー舟が作れるような素材(大中小の段ボール)を用意する。	・個々の感想をじっくりと聞き、教師や友達とも感動を共有できるような話し合いをする。 ・実際に見たハーレー舟のイメージを話しながら、製作につなげていくようにする。	仮説(2) 観察記録
6 月 21 日 26 日	・ハーレーぐっこへのイメージの共通化を図る。 ・ハーレー舟を作ったり、お店の品物を作る。 ・ハーレーぐっこの共通化を図る。 ・遊びの場や方法を工夫して楽しむ。	・ハーレー舟の形や模様を考えながら作る。 ・ハーレー舟の競漕をしたり、艇を鳴らしながらイメージを広げたりして遊ぶ。 ・衣装やエーク、ハチマキ等、遊びに必要な物を作る。 ・お店の品物を作る。	・ハーレー舟や品物等、イメージに合った素材の用意。 ・廊下全体を海に見立てたり、ハーレー艇やスタートの旗を提示したりして、より遊びが楽しめるようにする。 ・お互いのアイディアを認め合える場を設定する。 ・お店を開く場所を考えて遊びの空間を確保する。	・個々のアイディアを認め褒めて、自信につなげていく。 ・友達と一緒に考えて作っている子には、一緒に作る楽しさに共感し、イメージの共有ができるよう見守る。 ・アイディアを生かした舟の模様や形、品物を見せ、イメージの広がりにつなげる。	仮説(2) 観察記録
本 時 6 月 27 日	・友達とイメージを共有しながら「糸満ハーレーぐっこ」に意欲的に取り組む。	・ハーレー舟の製作、競漕、応援等をして遊びを楽しむ。 ・お店屋さんの売り買いを楽しむ。	・友達とイメージが共有できた場面や友達とかわる楽しさ等を伝え合える場を設定する。 ・廊下の海での競漕が増えてきているので、お互いにぶつからないよう遊び空間を十分あける。	・個々の思いを聞きながら、友達とのイメージにつなげていくようにする。 ・色や形、工夫を褒めながら遊びへの意欲につなげる。 ・友達とイメージを共有する楽しさを感じながら、進んで取り組めるようにする。	仮説(2) 観察記録

5 保育の仮説

- ・ハーレーのイメージが広がるような素材や場の環境構成をしたり、個々のイメージを広げるような援助の工夫をすれば、ハーレーごっこに意欲的に取り組むであろう。

6 本時の保育展開

幼児の姿	・ダンボールを使って自分のイメージでハーレー舟を作っている。殆どが2～3人の友達と製作を楽しんでいるが、中には一人で黙々と作る子の姿も見られる。 ・「新島チーム速かったな」「僕も見た」「お店で買ったよ」等、会話を楽しみながら遊びを進めている。 ・お店やさんではたこ焼きや焼きとり等、イメージに合った素材を使い、品物作りを楽しんでいる。	
ねらい	・友達とイメージを共有しながら“糸満ハーレーごっこ”に意欲的に取り組む。	内容 ・友達とイメージを共有しながら、ハーレー競漕や製作を楽しむ。 ・自分の思いを言葉や動き、歌で表現する。 ・自分なりに考えたり、工夫したりする。
	幼児の活動	環境構成★と援助の工夫◎（全体） 抽出児の環境構成—A★・B★・C★ 抽出児の援助の工夫—A◎・B◎・C◎
9:00	◇ 集って話を聞く ・手遊び「魚がはねてピョン」 ・糸満ハーレーの手作り紙芝居を見る。 ・ハーレーの由来や行事を思い出し話をしたり、聞いたりする。 ◇ 糸満ハーレーごっこについて話し合う。 ・前日までの活動を振り返る。 ・今日の活動へ意欲をもつ。 （ハーレー舟を作る） （エークや衣装を作る） （ハーレー競漕をする） （お店屋さんの売り買いをする） 	★手遊びをしながら、楽しい雰囲気をつくる。 ◎手作り紙芝居を見せながら、サンティンモーやサバニのこと等を思い出し、ハーレーのイメージを広げていく。 A◎知っていることを伝えたい気持ちを受け止め、しっかりと聞いてあげる。 ◎これまでの活動を振り返り、友達の舟を見たり、話を聞いたりしながら今日の活動への意欲につなげていく。 ★舟で動く範囲やお店やさんの遊び空間等の確認をする。 ◎場の設定でトラブルが起こった時には、幼児の思いも聞きながら一緒に考えていく。 ◎はさみやテープ等、用具の使い方を確認しながら安全に使えるようにする。 A◎自分の中でイメージをしっかりともちながら進めている姿を認め、そのイメージを友達にも伝えられるようにする。 A★本児のイメージに添いながら本物に似たエークを提示する。 B◎ハーレー艇をリズム良く鳴らしている姿を褒めながら、友達と一緒にイメージを広げながら取り組めるような言葉かけをしていく。 B★本児のイメージを受け止め、じっくりとかかわれるような素材を提示する。 C◎友達と話し合いながら遊びを進めている様子を見守り、本児の発想を認め、自信につなげていくようにする。 C★衣装にも興味があるので、工夫したり試したりできるいろいろな素材を用意しておく。 ★好きな時間にハーレーの曲が聞けるようにコーナーを設置する。 ★ハーレーのスタートを合図する旗が安全に振れるような場所を確保する。 ◎廊下の海で競い合うハーレー舟がぶつからないように遊びの様子を見守り、必要に応じて声かけをする。 ◎時間がない時には、明日への活動につながるような言葉かけをし、明日の活動へ期待がもてるようにする。
9:35		★用具の片付けでは、安全面に十分配慮する（特にハサミ）
9:45	◇ 今日の活動について話し合う。 ・楽しかったことや嬉しかったこと、工夫したことをみんなに話す。 ・友達の話聞く。 ・明日の活動に期待する。	ABC★作ったものをみんなが見える場所に置いたり、製作の工夫を友達に伝えたりして個々の頑張りを認めたりする。 ◎今日の楽しかった事や困った事を伝え合える雰囲気作りをし、自分の思いが伝えられるようにしながら明日の活動に期待がもてるようにする。 ABC◎友達とイメージを共有している場面を紹介し、自信につなげていくようにする。

7 本時の保育仮説の検証

保育仮説について、主体性の評価基準を基に表を作成し検証する。下の表は本時の保育における全体と抽出児の評価をまとめたものである。(表6)。

(1) ハーレーごっこに意欲的に取り組むことができたか

表6 全体と抽出児の評価(学級人数 31人)

検証の観点	4(良い)	3(概ね良い)	2(あまり良くない)	1(良くない)
・自分のイメージを言葉や動きで表現し、伝えていながら友達と一緒に遊びに取り組んでいたか。(意欲)	自分のイメージを言葉や動きで友達に伝え、進んで遊びに取り組んでいる。	友達のアイデアや発想を真似して自分もやってみる。	友達に誘われたら、一緒に作ろうとする。	友達の様子を傍観し一人で何もせずに過ごしていた。
全体(31人)の評価	68% (21人)	32% (10人)	0人	0人
抽出児の評価	抽出児B・抽出児C	抽出児A		

全体の保育仮説の考察

① 全体

検証の観点に対する全体の評価は全員4と3であった。そのことから全員が「意欲的に取り組んでいた」ことがわかる。「ハーレーゴングン」と掛け合って雰囲気盛り上げたり、イメージに合わせて素材を選びアイデアを生かしながら形や模様・品物を考える姿が見られた。イメージを広げながら自分なりに表現していったことが、遊びへの意欲につながっていったと考える。

抽出児の保育仮説の考察

② 抽出児

検証の観点に対する抽出児の評価はA児が評価3(概ね良い)、B児とC児が評価4(良い)であった。評価の基になった活動の様子を表7に示した。

表7 抽出児の評価の基になった活動の様子

評価の基になった姿	～A児の姿～	～B児の姿～	～C児の姿～
	◎遊び出すまでに時間がかかったが教師から衣装を提示され、友達と一緒に着たことでイメージが広がり、遊びへ取り組みだした。 ◎片付けの時間になり、遊びを十分に楽しむまでには至らなかった。イメージが広がるような素材の提示をしながら、遊びへの意欲につなげていく援助が必要である。	△遊び始める前にハチマキを締め直したり、ハーレー舟を大切に抱え準備していた。 △舟を真似て作ったことがきっかけでY君達とのかかわりも出てきて、一緒に競漕したり、スタートの旗振りをする等、友達とイメージを共有しながら意欲的に取り組んでいた。	◇友達と一緒にハーレー舟に乗ったり、競漕のスタートの旗ふりをしたりする等、いろいろな遊びに興味をもち取り組んでいた。 ◇自分も競漕に加わりたくなると旗を友達に渡してから「僕も入れて」と競漕に加わる姿も見られ、自分から意欲的に遊びに取り組み楽しんでいた。

教師の保育仮説の考察

③ 環境構成と教師の援助

ハーレーごっこに意欲的に取り組むことができるような環境構成と教師の援助を、2つの観点から分析・考察をする。

ア 遊びのイメージが広がるような環境構成について

☆ 素材の提示(サバニ・エーク・衣装・ハチマキ・お店の品物等を作るもの)

☆ 遊び空間の設定(廊下全体を海に見立てる・部屋でお店を開く)

等の環境構成の工夫を行った。そこでの素材や遊び空間が、実際に見たハーレーのイメージに近づき、それがハーレーごっこのイメージとつながっていき、全員が意欲的に遊びに取り組んでいたと考えられる。

イ 遊びの意欲を引き出す援助の工夫について

○一緒に素材を選ぶ ○ 製作時に個々の工夫や頑張りを褒め他児にも知らせる

○遊びに加わりイメージの共有を楽しむ等の援助の工夫を行った。

一緒に活動している教師や友達に認められたり、イメージを共有しながら遊びを進

めていったりしたことも意欲的に活動していった要因と考えられる。しかし、お店屋さんではそれぞれへの言葉かけをすることが不十分で、ハーレーごっこへのつながりをもたせる援助が弱かったのでグループに合った援助の工夫が必要である。

V 研究の考察

研究の考察は、主体性の評価基準(Ⅲ-1-表1)に沿って観察評価し、全体と抽出児の事前(5月)と事後(7月)の興味や関心、意欲の変容を比較し、考察をする。

1 地域の人やもののかかわりの中での環境構成と援助の工夫は、遊びの興味や関心を深めるために有効であったか

(1) 全体の興味や関心の変容について

遊びの興味や関心を深めるための環境構成と援助の工夫として、地域の方から糸満ハーレーの由来を聞き親しみをもたせたり、ハーレーに関連する史跡やサバニに触れ、ハーレーへのイメージを広げる等の工夫を行った。その結果、事前(5月)と事後(7月)では図1のような変容が見られた。事前の全体平均が、事後では1.4ポイント上昇し、全体的に遊びの興味や関心が深まったことが読みとれる。t検定の結果、($p < .01$)となり有意差が見られた。

また、具体的に全体の事前と事後の評価の変容を図2に示した。興味や関心をもったものに対して「自分から進んでかかわり試している」幼児が3%から81%と大幅に上昇した。また「教師や友達がかかわり試している様子を見ていた」幼児が「教師や友達と一緒に考え試す」ようになったことがわかる。幼児全員が地域とのかかわりの中でいろいろな事を知り、それをお互いに伝え合い、楽しんでいったことで興味や関心が深まったと考える。表8は教師の観察による全体の興味や関心の変容を示したものである。教師や友達に話す楽しさやお互いに伝え合う嬉しさを感じたことも興味や関心を深めることにつながったと判断できる。

興味や関心の
全体平均が上昇

「自分から進んでかかわり、
試している幼児」→81%

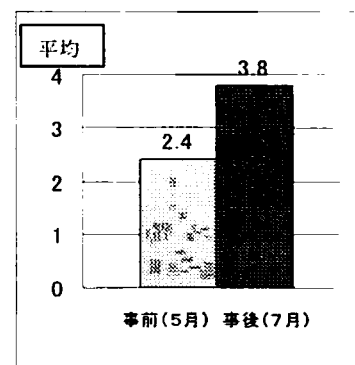


図1 全体平均の興味や関心の変容

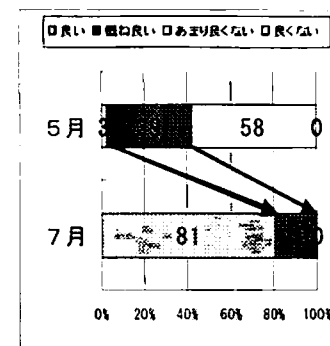


図2 興味や関心の評価の変容

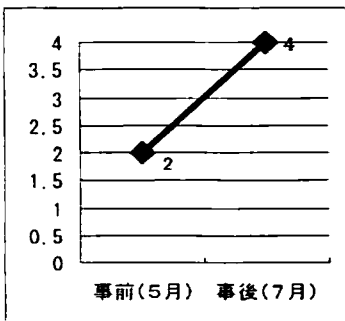
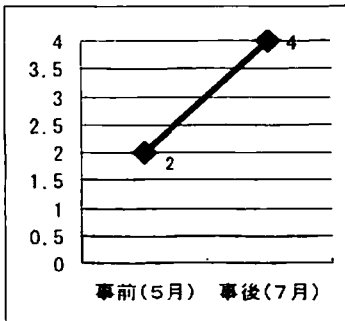
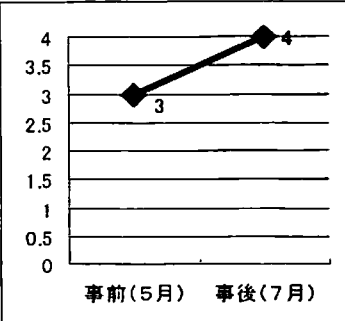
(表8) 教師の観察による全体の興味や関心の変容

(全体の事前の姿)	☆環境構成○援助の工夫	(事後(7月)の姿)
・遊びには参加せずに教師や友達の様子を見ている幼児が多く、誘われると一緒に取り組もうとするが、遊びが続かない幼児の姿も見られた。	☆地域の方から糸満ハーレーの由来を聞き、地域行事に親しみをもたせた。 ○糸満ハーレーに関する史跡を訪ねたり、サバニを見たり触れたりしてハーレーへのイメージを広げていった。 ☆糸満ハーレーを親子で見学した。	・地域の方が着ていたハーレーの衣装や持ってきたエークに「すごい」と歓声をあげ見入ったり、由来も真剣に聞いていた。 ・サバニを見て「魚の絵が描いてある」「龍の形がすごい」とギザギザ模様を手でなぞったり、両手を広げて舟の大きさを確かめたりして教師や友達に感触を伝えていた。 ・舟に乗せてもらおうと「ハーレーゴンゴン」という掛け声が始まり、全員での掛け合いとなった。中にはエークを持って漕ぎ真似をしたり、旗振りをしている幼児の姿も見られた。

(2) 抽出児の興味や関心の変容について

抽出児の事前と事後の興味や関心の変容をまとめた(表9)。興味や関心をもったことに対して「教師や友達がかかわり試している様子を見ていた」A児とB児は事前に比べ2ポイント上昇した。また、「友達や教師と一緒に考え試している」C児は1ポイント上がった。教師がその幼児に合った援助を行ったことで「やってみたい」「伝えたい」と自分から進んでかかわるようになり、地域のことを知った喜びや伝え合う楽しさを味わいながら取り組んでいた姿からも興味や関心が深まっていったことが読み取れる。

表9 抽出児の興味や関心の変容

	A児	B児	C児
興味や関心の変容	 事前(5月) 事後(7月)	 事前(5月) 事後(7月)	 事前(5月) 事後(7月)
事前の姿	○友達の遊びを傍観していることが多く、友達のやっている活動へあまり興味や関心を示さなかった。	☆絵本を見たり、友達の遊びを傍観したりして一人で過ごすことが多く、友達とのかかわりが少なかった。	◇興味をもった遊びに、友達と一緒に取り組んでいた。
環境構成・援助の工夫	●これまで糸満ハーレーに行ったことがないので、友達の話を聞く機会をもち、ハーレーの楽しさが伝わるようにした。 ●由来や史跡、サバニ見学で感じたことや思ったことをじっくりと聞き、教師の思いも伝えていきながら一緒にハーレーへのイメージを広げていった。	★絵本が好きなので、ハーレーの絵本を媒介にし、安心して自分の話ができるような雰囲気をつくっていった。 ★由来や史跡、サバニ見学で感じたことや思ったことを教師が友達に伝えることで、友達とのかかわりの中でハーレーへのイメージが広げられるようにした。	◆これまでの経験を進んで教師に話しかけてくるので、全体の集まり時にも本児に話す機会を与え、皆に伝えていった。 ◆ハーレー競漕をする場所や方法を知っているの、本児が不思議に思っていることや知りたいことを読み取りながら、できるだけ答えるようにし期待感を高めていった。
事後の姿	○(史跡)では、ハーレーの由来を思い出し、「舟が事故に遭わないように」と誰よりも先に拝所に拝んでいた。 ○初めて見たサバニに何度も触れたり、描いている魚の絵に入っていた。また舟に乗ると「ハーレーゴンゴン」と大きな声で掛け声をかけていた。 ○ハーレーの翌日「この前乗ったサバニを見た」と初めて見たハーレーの感想を自分から進んで話しかけてきた	☆地域の方が持ってきた櫓に触れ、「ギザギザ模様がある」「かる～い」と漕ぎ真似をしたり、持ち上げたりして、他児よりも長い時間櫓に触れ満足気だった。 ☆糸満ハーレーの翌日「舟がギザギザの龍だった」「速かったよ」と進んで話しかけてきたり、友達の話に自分も加わりながら聞いていた。	◇地域の方からの由来をしっかりと聞きながら、自分がわかる質問には進んで答えていた。 ◇本物の櫓に触れ「かるい」「この櫓、俺よりも小さい」と自分の背丈と櫓を比べ、喜んでた。 ◇糸満ハーレーの翌日、登園するとすぐに「昨日のハーレー競漕で、新島が一番速かったよ」と教師や友達に伝え、教えていた。また掲示してあった新聞記事を見て「前も新島速かったぜ」とこれまでの話もしていた。

以上のことから、地域の人やものとかかわりの中での環境構成と援助の工夫は、遊びの興味や関心を深めるために有効であったといえる。

2 ごっこ遊びの中での環境構成と援助の工夫は意欲的に活動するために有効であったか

(1) 全体の意欲の変容について

意欲の全体平均が上昇

「積極的に取り組んでいる幼児」→68%

意欲的に活動するための環境構成と援助の工夫として、実際に見た糸満ハーレーをごっこ遊びに取り入れた。その中でイメージに合った素材を提示したり、遊び空間や方法を考えていく等の工夫を行った。図3は全体平均の意欲の変容を示したものである。事前から事後へ1.3ポイント上昇し、全体的に遊びへの意欲が高まったことが読みとれる。t検定の結果($p < 0.1$)となり有意差が見られた。

また、具体的に全体の事前と事後の評価の変容を図4に示した。「積極的に取り組んでいた」幼児が3%から65%に大幅に上昇した。また「教師や友達に誘われ、指示に従い取り組んでいた」幼児と「教師や友達に誘われてもやろうとしなかった」幼児が、「誘われると一緒に取り組む」ようになったことがわかる。幼児全員がごっこ遊びに取り組む中で工夫し試したり、お互いのアイデアを認め合ったりしながら遊びに意欲的に取り組んでいた。

表10にも示したように友達とのイメージの共有、遊びの共通化を図っていったことも意欲的に活動していった要因と考えられる。

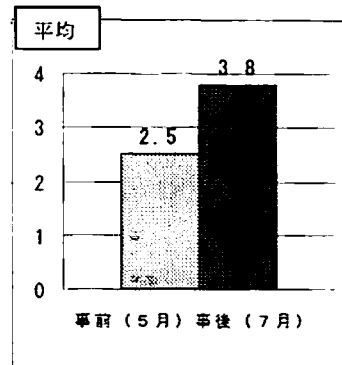


図3 全体平均の意欲の変容

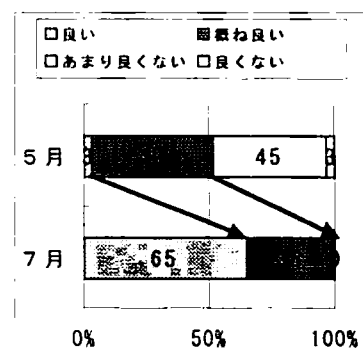


図4 意欲の評価の変容

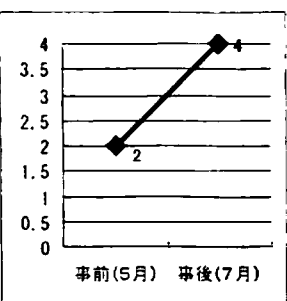
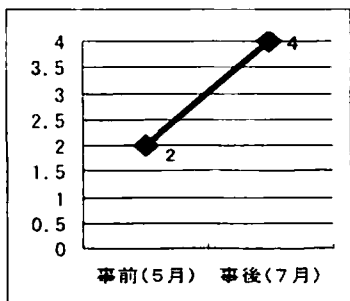
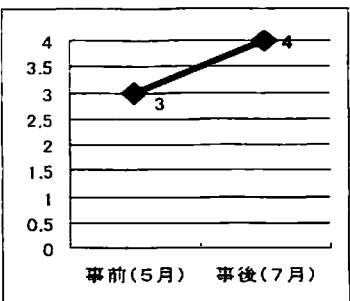
(表10) 教師の観察による全体の意欲の変容

(事前の姿)	☆環境構成○援助の工夫	(事後(7月)の姿)
・教師や友達に誘われ遊びに加わったり、一緒に遊んでいても友達の指示を待ちながら取り組んだりしている幼児が多く見られた。	☆ハーレー舟やお店やさんの品物を作れる多様な素材を用意した。 ○舟の先を尖らせる等の工夫や本物に似た容器での品物作り等、その子なりの工夫やアイデアを褒め、他児にも知らせた。 ☆ハーレー競漕でスタート合図の前に走り出したり、遊ぶ場所の取り合い等のトラブルが起こった時には、教師が仲介しながら話し合う場をもった。 ○友達とイメージを共有する楽しさに共感し、遊びの共通化を図った。	・ハーレー舟にギザギザ模様を貼ったり、かじを付けたりする等、工夫し試しながら製作を楽しんでいた。 ・友達と一緒に「ここを舟が休む場所にしよう」「たこ焼きはこの容器に入れよう」等、イメージを共有しながら遊びを進めていた。 ・競漕の時、合図前にスタートした友達に「ダメだよ、まだスタートって言っていないよ」等、教え合いながら楽しんでいた。

(2) 抽出児の意欲の変容について

抽出児の事前と事後の意欲の変容をまとめた(表11)。「教師や友達に誘われ、指示を待ちながら取り組んでいた」A児とB児は事前に比べ2ポイント上昇した。また、C児は1ポイント上がった。友達とのかかわりの中でイメージを共有し合い、お互いの工夫やアイデアを認め合う場面もあり、自分の思いや考えを受け止めてくれる友達や教師の存在も遊びへの意欲につながっていったと考えられる。

表 11 抽出児の意欲の変容

	抽出児 A	抽出児 B	抽出児 C
意欲の変容			
☆環境構成・○援助の工夫	☆舟に加え、衣装やハチマキを要求してきたので、画用紙や新聞紙、ビニールや紐等を用意した。 ○本物のサバニのような形にしたい、友達も一緒に乗れるようにそれぞれの場所をわけたいという考えもあったので、友達と一緒に相談しながら作った。	☆友達の舟にも興味が出てきたので、数名が乗れる位の大きさのダンボールを用意し、友達の作り方をしたり、教わったりしながら一緒に考えていった。 ○一人でハーレー舟を作っていたので、周りの様子も知らせていきながら友達と一緒ににかかわりながら楽しめるようにした。	☆舟の中まで色を塗ったり、画用紙で模様を作り貼っていたので全体の集まり時に紹介し、お互いを認め合える場をもった。 ○底のある舟を動かしたいと考えていたので、舟を引くための紐を提示したり、教師も一緒に動く方法を考えていった。
事後の変容	○友達と一緒に「青いハーレー舟にしよう」と色塗りをしたり、「西村の色のハチマキがいい」と本物のイメージに近づけながら遊びを進めていった。 ○「先が尖ったら本当の舟みたいになるよ」と段ボールを貼り合わせたり、新聞紙でエークを作ったりする等、自分のイメージを友達に伝えながら遊びを進めていった。	☆ 最初は一人で舟を作っていたが、友達の競漕している姿や工夫している様子を見て「僕もT君みたいな舟を作りたい」と素材を要求し、真似しながら作っていた。その後、舟を媒介にT君達とのかかわりも出てきて、一緒に舟に乗り楽しそうに遊ぶ姿が見られた。 ☆ハーレーゴングと掛け声を掛けながら競漕している友達の応援をしたり、スタートの旗振りを進んで行う等、自分から遊びに加わるようになってきた。	◇底のある舟に乗ったままで動かしたくて、後ろから押してみたり、引っ張ったりと自分なりにいろいろな方法で試していた。 ◇舟が壊れると「僕は修理やさんで〜す」と喜んで修理をしたり、友達と一緒に舟の休み場所(遊びの空間)を考えたりして、自分から遊びを楽しもうとする意欲的な姿が見られた。

以上のことから、地域行事を取り入れたごっこ遊びでの環境構成と援助の工夫は、意欲的に活動するために有効であったといえる。

3 遊びの興味や関心を深め、意欲的に活動するための環境構成と援助の工夫は、幼児が主体的に活動するのに有効であったか

テーマの考察 研究の考察1・2より、地域行事のごっこ遊びにおいて、興味や関心を深め、意欲的に活動するための環境構成と援助の工夫をしたことは、1学期の幼児の発達に沿った主体的な活動を促すことにつながり、有効であったといえる。

今後も家庭や地域の人々との連携を図りながら、ハーレー以外の地域行事を教材研究し園生活に取り入れることで、幼児の主体的な活動を促していくための環境構成と援助の工夫を図っていきたい。

VI 成果と課題

本研究では、幼児が主体的に活動するための環境構成と援助の工夫を行い、次のような成果と課題を得ることができた。

1 研究の成果

- (1) 地域の人やものを積極的に活用していったことで、地域とのかかわりも深まり、そこでの経験が遊びへの興味や関心につながっていった（V－1）。
- (2) ごっこ遊びをすることで、友達とイメージを共有したり、自分なりに表現したりして自分の力を発揮しながら意欲的に取り組んでいった（V－2）。
- (3) 地域行事をごっこ遊びに取り入れたことで、自分からかかわり、試したり、考えたりし、遊びへの活動意欲を高めながら主体的に活動していった。

2 今後の課題

- (1) 本研究は主体性の捉えである4つの視点のうち、①興味や関心と②意欲の2点に視点を当て主体的な活動を促した。今後は、幼児の発達段階に応じて③思いや願い、④自分の意志・判断にも視点を置き、主体的な活動を促していく（V－2）。
- (2) ハーレー以外の地域行事においても、幼児の主体的な力が発揮され、活動する喜びが味わえる環境構成と援助の工夫（V－1）。

〈主な参考文献〉

文部科学省	『幼稚園教育要領解説』	フレーベル館	2005 年
森上史朗他	『保育用語辞典』	ミネルヴァ書房	2004 年
柴崎正行他	『新しい保育の基本用語辞典』	明治図書	2004 年
岸井勇雄他	『指導法の研究』	チャイルド本社	2004 年
高橋たまき	『乳幼児の遊び—その発達のプロセス』	新曜社	1984 年
糸満市史編集委員会	『糸満市史』	糸満市役所	1991 年
糸満ふるさと研究会	『八月十五夜』	糸満ふるさと研究会	1989 年